令和元　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3092100019		
法人名	株式会社さくらメディカル		
事業所名(ユニット名)	グループホーム松風みはま　ユニットさくら		
所在地	和歌山県日高郡美浜町和田824－9		
自己評価作成日	令和元年11月20日	評価結果市町村受理日	令和2年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　和歌山県社会福祉協議会
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1－2
訪問調査日	令和元年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

田園風景が広がる自然豊かな環境に立地しています。同敷地内に当法人が運営するグループホームがあり、より良いサービス提供に向け互いに協力し合っています。年数が経つにつれ重度化への対応や看取り介護が増えていく中で、入居者様や家族様のニーズに応え安心した生活の場を提供できるよう、常勤、非常勤の看護職員を3名配置し、医療と介護の連携を密に図れるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

美浜町の田園地帯に位置する2階建てのグループホームで、同敷地内にデイサービスと、境界を挟んで日高町側にも同様のグループホームが併設されている。併設の3事業所が合同で開催する運営推進会議には、家族、地域住民と共に美浜町、日高町、由良町から自治体の行政担当者が毎回出席して運営について話し合っている。地域社会に貢献する姿勢を持ち認知症カフェの開催等も検討している。法人の方針で看護師の配置による入居者の健康管理に重きを置いており、入居者毎の各かかりつけ医とも連携して重度化や看取りの体制も整えて、医療と介護の両面で入居者の生活を支えている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を基に「ゆったり楽しくみんなでいこか」というユニット理念を掲げています。ユニット内、事務所に掲示し意識づけを心掛けています。	法人で作成されたホーム理念を事務所内に掲示して職員への浸透を図っている。加えて各ユニットごとに、入居者や家族が親しみを持って共有できる独自の理念を作り、共用スペースに掲げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域サークルの方や家族様が属しているサークルの方々等に来ていただき交流を図っている。また近隣の保育園とも年2回交流させて頂いています。	近隣に民家がなく近隣住民との交流は無いが、近くのアパートの大家が地域住民代表として運営推進会議に加わっている。また、入居者や家族からのつながりを通して、ボランティアの訪問等が得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が話し合い等で使用して頂けるようスペースを開放している。また、市町村担当者と協力し地域に向けた取り組みを検討しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回実施しています。形式ばった報告にならないよう、雑談を交えながら参加者からの意見を聞き、サービスに反映できるよう努めています。	同敷地内の2つのグループホームとデイサービスが合同で開催しており、家族、複数地域の行政担当者、近くのアパートの家主らによって、サービスの向上や地域貢献に向けた話し合いが持たれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より不明な点等を市町村担当者に相談しています。また、市町村からの要望や相談にも応じ、協力関係を築いています。	運営推進会議には美浜町、日高町、由良町の行政担当者が毎回出席しており、法人の統括部長も度々役場に足を運び、顔の見える関係の中で協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回、身体拘束廃止に向けた研修を行い理解を深めています。また運営推進会議でも身体的拘束年4回以上実施し、参加者からの助言を頂けるよう取り組んでいます。	入居者が圧迫感を感じないで自由に過ごせるようホームの玄関、ユニットの出入り口に施錠はしていない。日常の中で、気付かずに拘束にあたる声掛けをしてしまうことがないようにも意識して取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関しても年2回研修を行い、日頃のケアで虐待に近しい行為をしていないかを確認しあい、意識が高まるよう努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症の人の権利擁護、成年後見制度等に関して、研修計画に組み込んでいます。また、成年後見制度の必要性が出てきた場合、市町村担当者と協力し支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、一連の必要書類を説明して行く中で随時不明な点がないか確認し、理解、納得できるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時やお電話等で頂いた意見、要望は、ユニット若しくは事業所にて検討しサービス又は運営に反映するよう努めています。	入居者や家族から意見や要望を聞く機会は特に設けていないが、毎月の事業所だよりでホームの様子を伝え、家族の来訪時に話を聞けるよう配慮して声をかけ、サービス向上に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務や運営に関する提案書や質問書を活用したり、毎月行っているユニット会議にて意見、提案できるようにしていいます。意見、提案は検討し反映できるよう努めています。	月１回のユニット会議はもとより、職員間で意見や提案を出しやすい体制がとられている。統括部長に直接、職員からの意見提案が届くことも多く、必要な物品の購入は統括部長の決済により実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	家庭環境や本人の希望があればパートから常勤、常勤からパートへの変更を行ったりシフト調整を行ったり等、働きやすい就業環境になるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得支援の一環で研修費用を負担したり、回覧している社外研修を希望する場合は出勤日を調整したり等支援しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームや居宅介護支援事業所等の関係者と相談しているが、互いに行き来する機会は減ってきている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居までに本人様やご家族様に面接する中で、困っている事や要望等を聞き、なるべく不安なくサービス導入ができるよう支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込や面接時等にご家族様の不安や要望を聞き、関係を築いていいけるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、ご家族様が今何を必要としているかを見極め、他サービスの必要性、要望があれば対応する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の気持ちや希望を大切にし、日々の生活を過ごしやすい環境づくりに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	特定の面会時間を設けておらず、家族様が来訪しやすくなるよう関係作りに努めています。また面会時は本人様と家族様の時間を大切にし、過ごしやすい環境づくりに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで過ごされてきた中での知人や友人の方との関係が途切れないよう、来訪しやすい環境作りに努めています。	馴染みの場との関係継続については、家族の協力を得て墓参りに出かけるなどしている。職員はユニット専従で、ユニット内での入居者との馴染みの関係の構築にも配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を把握し席の場所を変更したり、他ユニットの入居者様と関係が築けるよう毎日交流している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も本人様や家族様の近況を訪ねたり、必要に応じて相談等も受けている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的に本人様又は家族様に生活についての意向を聞き取り、意向に沿えるよう努めています。	入居者や家族の言葉から本人の思いを聞き取り、職員間で共有できるよう工夫して記録している。意思表示が困難な入居者にも職員が本人と関わる中での気づきを持ち寄り検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様の生活歴や慣れ親しんだ環境等を本人様や家族様から聞き、サービスに反映できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌や申し送りノートを活用しながら情報を共有し日々の状態把握に努めています。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一度又は必要応じて適宜ケアカンファレンスを開き、現状の課題や問題点について検討している。また、本人様や家族様の意見や要望を反映した介護計画作成に努めています。	訪問時に家族の要望を聞いて介護計画に反映させている。3か月毎に検討会議を開き、医師、看護師の意見も取り入れて、計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式の生活リズムパターンシートを活用し日々の活動や気づいたこと、異変等を記入している。職員間で情報共有し介護計画を見直し、ケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様や家族様の状況の変化により新たな課題が出てきた際、必要に応じてサービスや支援を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族様や関係ある人等と情報交換に努め、本人様の持っている力が発揮できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様や家族様の希望を伺い適切な医療が受けれるよう支援しています。また、必要に応じて受診介助も行っています。	かかりつけ医は入居者が希望する医師であり、入居者の状況に応じて往診や通院による受診が行われている。医療面は、看護師を中心に各かかりつけ医と連携して、適切な医療を受けられる体制を作っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は日々の健康チェックを行い、介護職員は異変や気づいた点があれば看護職員に報告し連携しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、退院時に病院関係者と情報交換を行い、安心して治療できるよう関係作りに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に当事業所での方針やできることを説明し、重度化や看取り介護についての家族様の意向を書面で確認しています。	入居時にあらかじめ家族の意向を聞いているが、状況に応じてその都度話し合いを持ち、重度化や、看取りについての対処を決めている。看護師を中心に、かかりつけ医の協力を得て、今年度内に2名の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルを作成し線職員が閲覧できるようにしている。また研修の機会も設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練を年2回実施しています。近隣の方にも協力を仰いでいますが、協同した訓練は実施できていない。災害時に3日分程度の水分、食料の備蓄をしている。	年2回の避難訓練は消防所職員の立会いの下入居者も一緒に行っている。水害を想定した訓練は行っていないが、指定の避難場所には5分程度で到着できる予定であり、避難経路も周知している。	津波等の水害に備えて、円滑に避難できるよう、実際に入居者と一緒に経路をたどって避難場所へ出向き、注意点を把握しておくことが望まれる。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のコミュニケーションや対応の中で、個々のプライバシーを損ねない、よりよい関係が築けるような声掛けや対応を心掛けている。	個人の尊重はホーム理念にも謳われており、一人ひとりの人格を損ねない接し方に努めている。文書等は鍵付きの書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらから一方的な押し付けにならないよう、入居者様の希望をよく聞き、自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりの体調や気分を伺い、業務を優先せず希望に応えれるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の望む格好やオシャレが出来るよう支援しています。女性の方ならマニキュアをしたり化粧をしたり等。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好を把握し希望に沿えるよう支援しています。また状態に応じて形態や食材を変更したりしている。後片付け等をできる方にはして頂いています。	重度化が進む中で、入居者が調理や準備に加わる姿は見られないが、食の喜びを共有できるよう職員も一緒にテーブルにつき、同じものを食べており、おやつ作りも月１回程度行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じて食事量を調整したり、食事以外でも水分補給を促しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは個々の力に応じた対応や補助を行い、清潔保持ができるよう努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや出来る能力を把握し、トイレでの排泄やおむつ使用の頻度を減らす等の自立した排泄ができるよう努めています。	支援の中で、ほぼ自立できている入居者が多い。パッド、リハビリパンツも必要に応じて使用しているが、恒常化を避けて随時見直しを行って、排せつの自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動、食事等を一人ひとりに合わせて提供している。また看護師と相談し必要に応じて主治医と連携し対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴も楽しみの一つであり、体調やタイミングを見計らって入浴時間や介助者を希望に沿えるよう努めています。	一人ひとりが望む形で気持ちよく入浴できるよう取り組んでいる。リフト浴の設備も用意されているが、現在は使われておらず、重度化した入居者に対しては2人体制で介助して、安心して入浴できるよう関わっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを整えストレスが軽減できるように、また安心して休息できるように配慮し、本人様がリラックスして眠れるよう心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり担当している薬剤師又は主治医と情報を共有し服薬支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月来て下さるサークル活動のボランティアや、気分転換になるような行事を考え楽しみや張り合いになるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	頻度は多くないが、希望の場所や喫茶店、買い物等にゆっくりといけるよう支援しています。また、家族様と一緒にでかけられる方もおられます。	花見などの年間行事以外にも、少人数のドライブなど、月に1回程度は外出できるよう取り組んでいる。時には、個人の買い物や行きたいところへの個別支援も行うことがある。	信頼関係を強める相乗効果も期待できるので、職員と1対1での個別支援も取り入れ、入居者の満足と喜びを与える、さらなる外出支援の取り組みに期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様の了解の基、少額のお金を本人で管理されている方もおられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望に沿えるよう家族様や友人と電話で話せるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感に配慮し壁紙への飾り付けを最小限にし、作品等の展示は専用のスペースを設けている。居心地よくなるよう職員の発する音にも注意しています。	リビングに入居者の趣味、習慣にあわせた新聞、雑誌が置かれている。畳のスペースも設けられており、洗濯物たたみや、入居者が横臥してくつろぐなど、多目的に活用されている。加湿器の配置もあり、快適に過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の関係性を把握したうえで配置換えをし、より良い居場所となるような空間作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や趣味嗜好の物等を持ってきていただき、本人様が居心地よく落ち着ける環境になるよう努めています。	家具等の私物を多く持ちこんだ居室や、シンプルな居室など、一人ひとりの個性や好みで雰囲気の違う居室となっている。入居者の主体性に配慮して内側から施錠できるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々が有する能力を使い自立した生活ができるよう工夫し、安心、安全に日々を暮らせるよう努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容